

タマムシ



御内谷産

(撮影：桐原佳介)

私には、是非出会ってみたい憧れの生き物が沢山います。先日、その憧れの生き物の一つにやっとな会いすることが出来ました。それがタマムシです。タマムシといえば、法隆寺に納められている国宝「玉虫厨子」が有名です。飛鳥時代に作られた厨子で、数千匹分のタマムシの前翅が貼付けてあるそうです。かつて、私は路上でベッタタンコになったタマムシや、野鳥の巣箱に残されていた前翅のかけらしか見たことがありませんでした。そして、いつかタマムシの美しい生きた姿を見てみたいと、15年以上思い続けていたのです。

7月23日、家族みんなで町内の湿地に虫捕りに出かけていた時のことです。主人が、「あ！タマムシが飛んでる！」と叫びました。主人が指差す方向には、キラリと光る細長い虫が飛んでいて、すぐそばの薪置き場に止まりました。さすが私には網を持ってタマムシに突進しました。ところが、タマムシはパッと飛び立ち、遙か彼方まで飛び去ってしまい、とてもがっかりしました。これが私にとって人生

初の生きたタマムシとの出会いでした。

その数十分後ふと同じ場所を見たら、緑色に光る虫が再び私の視界に入ってきました。今度こそ！と網を一振り。飛んでいたタマムシをすくひ捕りました。全身が赤や緑の金属光沢に包まれたタマムシは、まさに生きた宝石そのものでした。一緒にいた娘と息子も「きれいだね〜！」と感激しながら、いつまでもタマムシに見とれていました。

タマムシの光り輝く体色は、天敵である鳥を寄せつけない効果と、仲間と出会い交尾するために目立つ効果があると言われています。そのため、最も体が光り輝く真夏の昼間に活発に活動するようです。タマムシは、サクラやエノキなどの広葉樹の大木の梢を飛びまわる性質があり、いつも高い所を飛んでいます。

皆さんのご近所にエノキやサクラなどの広葉樹の古木があれば、梢を見上げると、この美しい生き物に出会えるかもしれません。

自然観察指導員 桐原真希